

無痛分娩について

当院では、麻酔科専門医、産婦人科医師、助産師、看護師、薬剤師などが安全に無痛分娩を行うことができるよう管理・サポートしています。一人ひとりの出産に対する思いを尊重し、当院の無痛分娩について十分なご理解をお願いいたします。

●無痛分娩とは

麻酔などの手段を用いて陣痛を緩和しながら分娩を行う方法です。

無痛分娩＝痛みの緩和を図ること

腹部の圧迫感やお腹の張り、赤ちゃんが下がってくる感覚は残ります。

一般的に硬膜外麻酔で背中に細い管を入れ、麻酔薬を注入する方法で行われます。

●無痛分娩のメリットとデメリット

メリット	デメリット
・痛みを軽減できる ・リラックスして過ごすことができる ・呼吸が安定する ・赤ちゃんへの負担軽減	・足に力がはいりにくくなる ・行動が制限される ・分娩が長時間になる可能性がある ・麻酔の副作用が出る可能性がある (痒み、血圧低下、尿が出にくい) ・吸引や鉗子分娩になる可能性がある

【メリット】

- ・痛みや不安を軽減できる
→リラックスして出産に臨みやすくなります。
体力の消耗が少なくなり、産後の回復がスムーズになる人もいます。
- ・赤ちゃんに酸素が届きやすい
→血管の収縮を抑えられ、呼吸が安定します。
- ・ママの状態を安定させることで、間接的に赤ちゃんへの負担も減らす

【デメリット】

- ・足の力が入りにくくなる・行動が制限される
→動きや感覚に関わる神経に作用することがあるため、いきみの感覚が分からなくなる人もいます。
- ・分娩が長引いて赤ちゃんに負担がかかる
→陣痛が弱くなったり、息みにくくなったりするとお産の時間が長くなり、

赤ちゃんに負担がかかる場合があります。

- かゆみを生じることがある
→元々皮膚の弱い人は痒みが出る人もいます。
- 尿が出にくくなることがある
→麻酔の影響で膀胱の感覚が鈍くなり、尿意が分からないことがあります。
自然に感覚は戻りますが、時間がかかる人もいます
- 血圧が低下することがある
→背中の神経は血圧維持にも関わっているため、血圧が下がる人もいます。
多くは心配ない程度ですが、気分が悪くなったり、赤ちゃんが苦しくなる場合もあります。
- 吸引や鉗子分娩になることがある
→上手くいきむことができなかったり、分娩に時間がかかり、赤ちゃんが苦しくなった場合は、赤ちゃんを早めに出すために行う場合があります。

●まれに起こる重篤な合併症

- 硬膜穿刺後頭痛（頭痛・吐き気・首の痛み）
- 局所麻酔中毒（耳鳴り、舌の痺れ、めまい、けいれん、不整脈）
- 硬膜外血腫（しびれ、力が入りにくい）
- 全脊髄くも膜下麻酔（血圧低下、意識消失、呼吸苦）

●硬膜外麻酔ができない疾患・状態

- 挿入する部分に感染がある、もしくは敗血症になっている場合
- 血小板が少ない、また血液が固まりにくい薬剤を内服している場合
- 閉塞性肥大型心筋症
- 多発硬化症